

「禁じられた恋」の壮大な四部作 日本初演!

ポール・クローデル = 作

繻子の靴

四日間のスペイン芝居

作/ポール・クローデル『繻子の靴』(岩波文庫版) 翻訳・構成・演出/渡邊守章 映像・美術/高谷史郎 照明/服部基

2016年 12月10日[土]・12月11日[日] *両日とも「一日目」から「四日目」までの一挙通し上演

10:30開場 11:00開演 終演 20:30頃 (途中約30分の休憩が3回入ります)

会場 京都芸術劇場 春秋座 (京都造形芸術大学内)



京都芸術劇場

京都造形芸術大学15周年



さらなる発展と冒険へ

上演時間8時間をこえる超大作

世界を舞台にした悲劇的なすれ違いドラマを主軸に、それにからむ道化芝居の千変万化と、超現実的異空間の交錯。西洋と東洋の、古典と前衛の演劇言語が絢爛たる火花を撒き散らす。

出演

剣幸 / 吉見一豊、石井英明、阿部一徳、小田豊、瑞木健太郎 /

茂山七五三、茂山宗彦、茂山逸平、島田洋海、鈴木実 /

岩澤侑生子、岩崎小枝子、鶴坂奈央、千代花奈、田中沙依、片山将磨、山本善之、磯貝優志、谷田真緒 /

藤田六郎兵衛(能管) / 野村萬斎(映像出演)

□入場料(全席指定)

一般 6,500円 シニア 6,000円 京都芸術劇場友の会 5,500円

学生&ユース 3,000円 [ユースは25歳以下、シニアは60歳以上] シニア・学生・ユースは要証明書提示。未就学児のご入場はご遠慮ください。

※車椅子ご利用のお客様、足の不自由なお客様は、お電話にてお申込み、お問い合わせください。(075-791-8240: 京都芸術劇場チケットセンター)

□チケット発売日

友の会先行発売: 2016年9月27日(火)

一般発売: 2016年9月28日(水)

□チケット取扱い

●京都芸術劇場チケットセンター(窓口販売・電話予約)
Tel. 075-791-8240 (平日10:00~17:00)

●劇場オンラインチケットストア ※要会員登録(無料)
パソコンから <http://www.k-pac.org/>
携帯電話から <http://www.k-pac.org/theatre/m/m>

●チケットぴあ
<http://t.pia.jp> Tel. 0570-02-9999 Pコード: 453-546

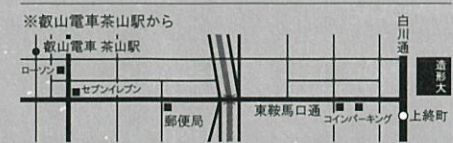
●イープラス
<http://eplus.jp>

●京都・滋賀各大学生協プレイガイド

□主催・お問合せ先

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
Tel. 075-791-9437 <http://www.k-pac.org/>

京都芸術劇場 春秋座 [京都造形芸術大学内]
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116



■JR・近鉄「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から京都市バス5系統「岩倉」行きに乗り、「上終町京都造形芸大前」下車(「京都」駅から約50分、「三条」・「河原町」駅から約30分)

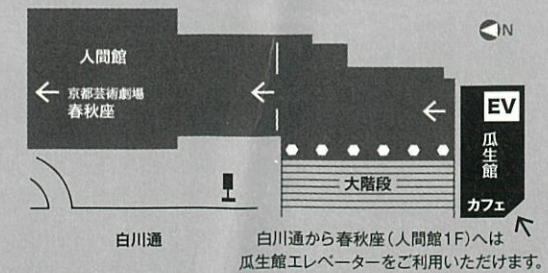
■京都市営地下鉄「丸太町」・「北大路」駅(北大路駅バスターミナル)から京都市バス204系統循環「高野・銀閣寺」行きに乗り、「上終町京都造形芸大前」下車(約15分)

■京阪「出町柳」駅から叡山電車に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩約10分

■タクシーご利用の場合、「京都」駅から約30分。地下鉄「今出川」駅から約15分(「京都」~「今出川」は地下鉄で約10分)。

※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。天候や交通事情により変わりますのでご注意ください。

※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はご遠慮ください。



神は、曲がりくねった線で、真っ直ぐに書く——（ポルトガルの諺）

『繻子の靴』——フランスの前衛劇詩人であり、世界各地で活躍した外交官でもあったポール・クロードルが、大正年間に日本滞在中に書き上げた、大航海時代を舞台に繰り広げられるこの『世界大演劇』は、かつて本国では徹夜上演も行なわれたほどの、まさに現代演劇史に燦然と輝く金字塔です。しかし、そのスケールのあまりの大きさに、日本では長い間、もともと上演困難な作品のひとつとされてきました。その超大作がいま、クロードルにも縁のあるこの京都で、豪華スタッフ・俳優陣により、いよいよ「全曲版」の、「新大陸」の征服者（コンキスタドル）である若き騎士ドン・ロドリッグと、舞台は、16世紀末のスペイン。「新大陸」の地上ではかなうことのない激しい恋。プルエーズの夫、老犬若く美しき人妻ドニャ・プルエーズの、地上ではかなうことのない激しい恋。プルエーズの夫、老犬審問官ドン・ペラージュと、キリスト教を否定しようとする背教者ドン・カミーユを巻き込んだ、壮大な（すれ違いの）物語が、地球を舞台に繰り広げられます。四部構成から成る全体は、スペイン・バロック演劇の慣習にしたがい、それぞれ「一日目」「二日目」「三日目」「四日目」と題されています。

◆「一日目」

アフリカ北西海岸の総司令官であるドン・ペラージュの若い妻ドニャ・プルエーズは、ふとした偶然から出遭った騎士ドン・ロドリッグに激しい恋を抱いているが、結婚の秘蹟に妨げられて、恋を遂げることはできない。年若いペラージュは、臣下ドン・バルタザールの警護のもと、わざとプルエーズを遠方に派遣しようとするが、プルエーズはまさにその機を利用し、ロドリッグのもとに走ろうとする。だが、ロドリッグは偶発的に起こった戦闘で重傷を負い、二人の出会いには挫折する。

◆「二日目」

生死の境をさまようロドリッグを介護する母ドニャ・オノリアの館で、プルエーズはあえてロドリッグに会わない決断をする。ペラージュは、「一つの誘惑に加えてさらに大きな誘惑」を与えるべく、プルエーズを、彼女に焦がれるもうひとりの男、ドン・カミーユが守備するアフリカ・モガドル要塞へと出発させる。国王からプルエーズへの帰国命令の親書を託されたロドリッグは愛する彼女を追うが、プルエーズはロドリッグに会うことを拒絶する。

◆「三日目」

夫ペラージュが死に、プルエーズは、アフリカ西海岸の守備のため、カミーユとの結婚を選んだ。しかし、その折に書いたロドリッグ宛の手紙は、10年間地球上をさまよった挙句、ようやくロドリッグの手に届く。すでに夢のなかで守護天使と対話し、「自己犠牲」を受け入れることを選んだプルエーズと、背教者カミーユとのあいだの息詰まる対決。「禁じられた恋」を遂げるため、船団を組んでモガドル沖に侵攻した征服者ロドリッグと対面したプルエーズは、カミーユとの間にできた娘ドニャ・セテペ（七剣姫）をロドリッグに託し、天上での愛の成就を祈念しつつ、永遠に彼の下を去ることを決心する。

◆「四日目」

「三日目」からさらに約10年後。かつての征服者ロドリッグは、いまや老残の身となっている。スペイン国王の寵愛を失って訪れた日本で、合戦により片足を失い名古屋城御天守に幽閉され、そこで日本人絵師に会い、日本の美学とその哲学を学ぶ。ヨーロッパに戻ったロドリッグは、国王の仕掛けた罠によって追放の憂き目にあう。全てを失ったロドリッグは、満天の星の下、はじめて魂の救済をおぼえるのであった。

繻子の靴

四日間のスペイン芝居

作/ポール・クロードル
『繻子の靴』(岩波文庫版)
翻訳・構成・演出/渡邊守章
映像・美術/高谷史郎
照明/服部基



ポール・クロードル (1868-1955) 【作】
20世紀フランスの最も重要な作家・劇詩人で外交官でもあり、日本には大正年間に5年近く大使として滞在し、日本の文化を深く愛した。長編戯曲『繻子の靴』は、1923年関東大震災に罹災し原稿の一部を大使館とともに消失するという不運に見舞われながらも滞日中に完成させた。実姉は彫刻家のカミーユ・クロードル。主な作品に『黄金の頭』、『真昼に分かつ』、日本文化論『朝日のなかの黒い鳥』など。

渡邊守章 【翻訳・構成・演出】
演出家、フランス演劇研究/京都造形芸術大学舞台芸術研究センター客員教授
1933年生まれ。主な演出作品にラシーヌ『フェードル』、ジュネ『女中たち』、ミュッセ『ロレンザッチョ』など。2005年発行の訳書、『繻子の靴』(上・下/岩波文庫)により、毎日出版文化賞、日本翻訳文化賞、小西財団日仏翻訳文学賞受賞。個人訳『マラルメ詩集』(2014年)。春秋座では、2008年7月に朗読オラトリオ『繻子の靴』を、2014年3月に『繻子の靴』『2日目第13場』の「二重の影」を演出。

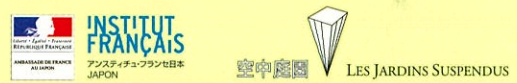
高谷史郎 【映像・美術】
マルチメディアアーティスト
「ダムタイプ」の創設メンバーとして、パフォーマンスやインスタレーションの制作に携わり、映像、照明、グラフィックや舞台装置のデザインなどを手がける。個人としての活動も多く、近年のおもな作品に、パフォーマンス『ST/LL』(2015年 フランス Le Volcan 初演)、インスタレーション『PLANKTON: 漂流する生命の起源』(2016年 クリスチャン・サルデ、坂本龍一との共同制作、KYOTOGRAPHIE-京都国際写真祭およびカルティエ財団現代美術館/パリで展示)など。渡邊守章演出作品では、「マラルメ・プロジェクトI~III」(2010-2012年)、「二重の影」(2014年)の映像・美術を担当。



演出助手: 木ノ下裕一、岩崎小枝子
映像プログラミング: 濱 哲史、古舘 健、白木 良
映像技術: 三谷 正
音楽: 原摩利彦
音響操作: 宮田充規
舞台監督: 夏目雅也、大鹿展明
衣装: 萩野 緑

2016年 12月10日[土]・12月11日[日]
*両日も「一日目」から「四日目」までの一挙通し上演
10:30開場 11:00開演———終演 20:30頃
(途中約30分の休憩が3回入ります)
会場 京都芸術劇場 春秋座 (京都造形芸術大学内)

主催・製作: 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター
技術監督 小坂部恵次 / 制作 川原美保、堂岡佐和子 / 広報 今井尚美
助成: 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本
京都芸術センター制作支援事業
協力: ダムタイプオフィス、演劇集団円、SPAC-静岡県舞台芸術センター、空中庭園、放送大学文京学習センター



関連企画
明倫ワークショップ
10月23日(日) 14:00~15:30 『繻子の靴』をめぐる対談(1)『繻子の靴』について——翻訳の“足取り” 渡辺保(演劇批評)、渡邊守章
10月30日(日) 16:00~17:30 『繻子の靴』をめぐる対談(2)『繻子の靴』——テキストと演出 渡邊守章、木ノ下裕一(木ノ下歌舞伎主宰)
会場: 京都芸術センター(京都市中京区室町通通楽門下山伏山町546-2) 定員40名 無料・要事前申込み お申込み先: 京都芸術センター Tel.075-213-1000